茨建協未来協県西地区

下館北中学校で木造ハウス引渡式

「貴重な体験」生徒が感謝

全員で記念撮影。ハウスは生徒らが「北の小屋（えき）」と命名した

柴支部長

青沼課長

飯島校長

鶴見理事

県建設業協会の建設業来協議会県西地区会が筑西市立下館北中学校で進めていた建設体験学習で1日、完成した木造ハウスの引渡式が行われた。

体験学習は、中学生に建設事業への親近感を深めてもらい、将来の職業選択の糧となるように1995年度から実施されており、同校で22校目。

今回は2年生49人を対象に、10月1日に基礎工事と測量体験、10月16日に組立工事と重機操縦体験、11月11日に塗装工事を実施。大子産の木材を使用した校倉工法による立派なハウス（延べ9・72㎡）が完成した。

式では、はじめに県土木部検査指導課の青沼文彦課長が建設業について、「我々が生活していく上でなくてはならない仕事で、大変魅力ある仕事」と述べ、「これから進路を決める際に今回の体験学習を思い出してほしい」と呼びかけた。

県建設業協会筑西支部の柴勝支部長は「魅力ある建設業をPRしようと20年以上この活動をしている」とし、「体験を通じて高校、大学、就職などにおいて、建設業に興味を持っていただきたい」とあいさつ。

生徒代表の壁田さんが謝辞

来賓代表で筑西市教育委員会の鶴見久男理事は、「この貴重な体験は、将来きっと役に立つことと思う」と話し、また協会に対して「この事業を続けていただき、これからも多くの生徒が体験できることを願う」と伝えた。

その後、柴支部長から飯島博昭校長に目録が手渡され、飯島校長は「このハウスも素晴らしいが、それ以上に本校生徒がいろいろな体験できたことが素晴らしい。卒業したあとも自分が造ったんだという誇りを持ってほしい」と述べた。

そして、生徒を代表して壁田幸映さんが「貴重な体験ばかりでワクワクすると振り返り、「きょうまで本当にありがとうございました。たくさん活用し、大切に使っていきます」と感謝の言葉を述べた。

完成したハウスは、当初は倉庫とする考えだったが、あまりにも立派なため、休憩所や救護所として使うという。

竜ケ崎阿見線バイパス 1・2㎞が供用開始

県竜ケ崎工事

石井県竜ケ崎工事事務所長

天田阿見町長

テープカットやくす玉開披で開通を祝った

県竜ケ崎工事事務所が整備を進めていた「県道竜ケ崎阿見線バイパス」の牛久市久野町～阿見町よしわら区間（延長約1・2㎞）が、12月2日に開通した。同日は、現地にてテープカットや通り初めなどの開通式を執り行い、開通を大いに祝った。

県道竜ケ崎阿見線バイパス（都市計画道路追原久野線）は、牛久市を起点に国道125号に至る計画延長7・2㎞の広域的な幹線道路。このうち圏央道阿見東ICから国道125号バイパスまでの6㎞区間は、2011年12月までに段階的に供用。

今回は阿見東ICから南側の区間、約1・2㎞を暫定2車線で供用。併せて、阿見町道の福田工業団地線の約0・3㎞も同時に供用した。これに伴い、阿見東ICおよび沿道の商業施設・工業団地等へのアクセス向上が期待される。

開通式では、県竜ケ崎工事事務所の石井秀雄所長が「この開通を契機に、いばきの丘阿見東のまちづくりをさらに進めていくので、今後とも皆さまのご協力を」とあいさつ。

パトカー先導で通り初め

天田富司男阿見町長は、開通を祝うとともに「県の皆さまと一緒になって土地政策、地域の活性化に積極的に携わっていきたい」と抱負を述べた。

続いて、交通安全祈願やテープカット、くす玉開披、バルーンリリースで完成を祝福。通り初めを行い、開通を祝った。

県公共施設の総合管理計画

年度内策定へ議論

有意義な意見が提案された

県公共施設等総合管理計画の策定に向けた第2回有識者会議（委員長・兼和（ユ・ファ）茨城大学教授）が11月28日、県庁で開催された。今回は計画の構成や基本方針などについて確認しあった。

県には2013年度末時点で、教育施設や庁舎などの建物系公共施設が延べ約378万4000㎡、道路が4176㎞、橋梁が2295橋あるが、そのほとんどが高度経済成長期に建設されたため、更新時期が一斉に到来している。

特に建物系施設の更新費用の概算は年平均で300億円と試算されており、限られた財源でいかに維持・更新していくかが問題となっている。

そこで総務省の要請を受け、県が保有する全公共施設について、17年度から46年度までの管理計画を策定することとなり、この会議は経営管理や文化施設、建築技術などの専門家らの意見を募るもの。

今回は計画の構成や、①施設の長寿命化②資産総量の適正化③資産の有効活用―の3つの基本方針について協議した。

今後、来年の第1回県議会やパブリックコメントを経て、本年度内には計画策定となる見通し。

人間関係の構築が鍵

建設業活性化フォーラム

国県・茨建協ら

江尻県土木部監理課長

国土交通省関東地方整備局や県土木部、県建設業協会らによる「建設業活性化フォーラム」が2日、県市町村会館で開かれた。現在の建設業を語る上で重要な項目となる、担い手育成、法改正、維持管理といった3つのテーマについて各講師が説明。良好な人間関係の構築が、建設業の発展に不可欠となることを説いた。

主催者を代表して、江尻善晴県土木部監理課長は担い手三法に触れた後、「建設投資額はやや回復傾向にある一方、就業者数は依然減少が続く。担い手不足が課題。さらに震災以降、大規模災害の迅速対応、維持管理を行う上で地元建設業は欠かせない。今日のフォーラムを役立てていただきたい」と期待を寄せた。

講師の話を聞きながら若手育成の課題を探った

講演では㈱建設経営サービス提携講師の中村秀樹氏が「工事遂行の難局を越える現場代理人の意識変革と発想」と題して講演。発想を変えた施工の段取りや下請との協力事例などを紹介しながら、「お互いがねぎらい、良い人間関係を構築することがやる気と知恵を育てる」と結んだ。

続いて関東地方整備局建政部建設産業第一課の弓野和弘課長補佐が、建設産業の現状と最近の取り組みについて、元土木研究所構造メンテナンス研究センターの交流研究員でもある県土木部道路維持課の津幡紀昭氏が、先進地域におけるメンテナンス技術者育成の取り組みについて説明した。

大石、徳山氏ら講演

建設青年会議が全国大会

未来への責任をテーマに大会が開かれた

全国建設青年会議の第19回目となる全国大会が京王プラザホテル新宿（東京都新宿区）において開かれた。「国土に、未来に、責任！築土構木の思想とその未来を考える―」をテーマに開かれ、国土政策研究所の大石久和所長、国土交通省の徳山日出男技監が講演したほか、京都大学の藤井聡氏をコーディネーターにしたパネルディスカッションも行われた。

冒頭、主催者を代表してあいさつに立った関東建設青年会議の斎藤和実氏（栃木県、㈱斎藤組）は、「先人が残した国土をどのように未来につなげるのか。国土を預かるわれわれが真剣に考える時がきている」と呼び掛けた。

講演では、大石氏が建設業や公共事業の役割や重要性などを訴え、徳山氏も東日本大震災の際に東北地方整備局長として陣頭指揮をとった経験を踏まえ、地域の建設業の必要性を強調した。

パネルディスカッションでは、藤井氏がコーディネーターを、大石氏がコメンテーター・アドバイザーを務め、パネリストには経世論研究所の三橋貴明所長、産業経済新聞社プロジェクト推進本部記者の今泉有美子氏、関東建設青年会議の斎藤氏が「これからの50年、100年」をテーマに活発に意見交換を行った。

好調が続く

10月の会員受注

日建連

日本建設業連合会は、会員企業98社を対象に行った10月までの工事受注調査結果を取りまとめた。民間工事が昨年の反動で減少したものの、官公庁工事が大きく増加し、全体を押し上げ、前年同月比15・1％増の1兆1740億円だった。4月からの累計でも同6・0％増の8兆5230億円とした。

昨年は消費税率の引上げに伴う駆け込み増があり、9月を中心に大幅に増加し、10月も高い水準だった。ことしはその反動で対前年比では減少したが、一昨年と比較すると増加しており、水準としては低くなかった。

官公庁工事は、9月までの前倒し発注の影響で多少減少することが予想されていたが、前年比で32・4％増、4月からの累計でも49・5％と大きく増加し、金額では2兆9670億円とした。これは昨年度4月～1月までの累計よりも大きな金額になっている。

今後は、年度末に向けて上期発注の反動減が予想されるが、これまで大きく伸ばしていることから、年度トータルとしては少なくとも前年並みの水準は維持しそうだ。

31人5団体を表彰

事業推進の功績たたえ

ダム協会

宮本会長

日本ダム協会（宮本洋一会長）は11月28日、東京プリンスホテル（東京都港区）で第34回ダム建設功績者表彰並びに第28回ダム工事総括管理技術者認定証授与式を開催。ダム建設事業の各部門で功績のあった31人と5団体を表彰した。

式典に先立ち宮本会長は受賞者の功績をたたえたのち、「この制度は協会の総力を挙げて、さらに拡充していきたい」と強調した。

続いて選考委員会の廣瀬利雄委員長が選考経過を報告。慎重に審査をした結果、用地関係5人、工事関係25人、環境関係3団体、本年度新たに創設された上下交流関係2団体、現場専門分野関係1人を選定した。

このあと表彰状および記念品の贈呈が行われ、宮本会長から各部門の代表者にそれぞれ手渡され、改めてその功績をたたえた。これを受け、受賞者を代表して用地関係部門の山越梯一氏が謝辞を述べ、ダム事業のさらなる円滑な推進に貢献することを誓った。

引き続き、ダム工事総括管理技術者認定試験に合格した12人に対する認定証の授与式が行われた。

式典を締めくくるかたちで来賓の国土交通省水管理・国土保全局治水課の大西亘課長があいさつし、受賞者に賛辞を贈るとともに、ダム事業の重要性を訴えた。

功績者表彰式では、宮本会長から各部門の代表者に表彰状が手渡された
第34回 ダム建設功績者表彰式
ダム工事総括管理技術者認定証授与式

群馬県技士会が港湾見学会

中央ふ頭を見学する参加者

群馬県土木施工管理技士会（野口和明会長）は2日、常陸那珂港と日立港の現場見学会を開催し、参加した21人が港湾工事の技術について学んだ。

最初に訪れた常陸那珂港では、港湾管理業務を手掛ける㈱茨城ポートオーソリティの社内で、県内の港湾整備の進捗について同社の黒澤睦課長代理から説明を受けた。

黒澤氏は、港湾の基礎となるケーソンの移動について「空気の力を用いたフルーズ方式を採用し向上に役立てたい」と話していた。

引き続き、埋立作業中の「中央ふ頭地区」と、東日本大震災により被災した「北ふ頭外貿地区」をバスで巡回。整備状況を視察した。

野口会長は「港湾見学会は初めての試み。貴重な機会をいただき感謝している。今回見聞きしたことを私たちの技術力の向上に役立てたい」と話していた。

環境美化と安全に寄与する
ISO　9001:2008認証
国土交通省大臣許可（特定建設業）
総合交通安全施設：区画線・道路標識・カーブミラー他
塗装工事：一般建築・橋梁・鉄骨・トンネル内壁
防水工事：全般
電気工事：交通信号機・太陽光発電・内外電気工事
土木工事：全般
建築工事：リフォーム・増改築
株式会社アコオ
本社：茨城県水戸市谷津町細田1－12
Tel　029-251-3016　Fax　029-252-7164
E-mail　ibaraki@akoo.jp
URL　http://www.akoo.jp
営業所：東京営業所・県西営業所

株式会社
奈良屋
水戸市笠原町600番地の15
TEL029(241)5141㈹
〒310-0852
日立支店　TEL0294(22)1155㈹
土浦支店　TEL029(823)2011㈹
県下総代理店
エーアンドエーマテリアル
INAX
旭化成建材
吉野石膏
日東紡マテリアル
東リ
日新工業
三ツ星ベルト
ダウ化工
ロンシール工業

取扱商品
■油圧ショベル
0.03㎥～1.2㎥（0.7B/Hハイブリット）
解体仕様　0.45㎥～1.2㎥
0.45B/H　12m及び14mスーパーロング
0.7B/H　15m及び18mスーパーロング
カメレオンクラム　0.4㎥～0.7㎥
ボックス型スライドアーム　0.25㎥～0.7㎥
■押しブル
4t～20t（D61Pハイド板折りたたみ式）
■1t～10tキャリアダンプ
■道路機械　■ホイールローダ
■ダンプ　■高所作業車
■敷鉄板　■発電機
■ハウス　■トイレ
箕輪リース販売株式会社
茨城県神栖市太田1526番地39
本社　TEL0479(48)6680
FAX0479(48)5581
茨城県神栖市筒井1847番地
神栖営業所　TEL0299(93)3221
FAX0299(93)3230